

シラウオの加工施設を見学する井上本部長(中央)ら=24日 福島・浪江町



党復興加速化本部

原発被災地 福島4町1村を調査

住民帰還へ道筋探る

公明党東日本大震災復興加速化本部(本部長=井上義久副代表)は24、25の両日、東京電力福島第1原発事故に伴う帰還困難区域を抱える福島県4町1村を視察した。住民帰還や避難指示解除を巡る課

題を把握し、今夏、自民党と共に政府へ提出する復興加速化に向けた第10次提言に反映させるのが狙い。党東北方面本部の庄子賢一副本部長(宮城県議)、佐々木雅文政策局次長と福島県議が同行した。

井上氏 希望者の思いに対応



復興拠点外に残る住宅を宮本町長(左端)と視察する党加速化本部のメンバー=25日 福島・富岡町

24日、井上本部長らは、浪江、大熊、双葉の3町で特定復興再生拠点区域(復

し、活魚の養殖水槽や加工施設を見学。柴孝一社長は「首都圏や関西圏で品質が評価され、震災後から売り上げが回復し

つある」と話した。次いで一行は、大熊町で吉田淳町長らから、町が最重点事業として進めているJR大野駅前の再開発について説明を受けた。

吉田町長は「復興拠点に面した山林の線量が高く、避難指示解除の要件である年間被ばく線量20ミリシーベルトを下回らない地点がある。伐木や土壌の除去など、踏み込んだ除染の実施をお願いしたい」と求めた。双葉町では、復興拠点外に残されている佐々木清一さんの自宅建物を訪問。佐々木さんは「次の世代へ古

里をつないでいくために、除染や家屋解体の方向を示してほしい」と訴えた。伊沢史朗町長は「住民帰還とコミュニティの再構築へ、公明党の力を期待している」と述べた。翌25日、党復興加速化本部は富岡町と葛尾村を視察。宮本皓一町長から「国際教育研究拠点の整備促進」、篠木弘村長からは「希望する住民の帰還へ財政・人材面での支援を」との要望を受けた。

視察後、井上本部長は「帰還を希望する人の思いに応えられる道筋を示さなければならぬことを痛感した。第10次提言で方向性を出せるよう取り組みたい」と決意していた。